

現 役時代を過ごし肌で感じた者に、この存在感は格別だ。日産スカイラインGT-R。型式名KPG10。ハコスカの代表として語り継がれるアレである。特に71年以降の、2ドアハードトップをもとに生み出されたワークスのレーシングカーに、強い憧れを抱く人は多い。ここにお目見えした全身甲殻類のようなカーボンのハコスカ



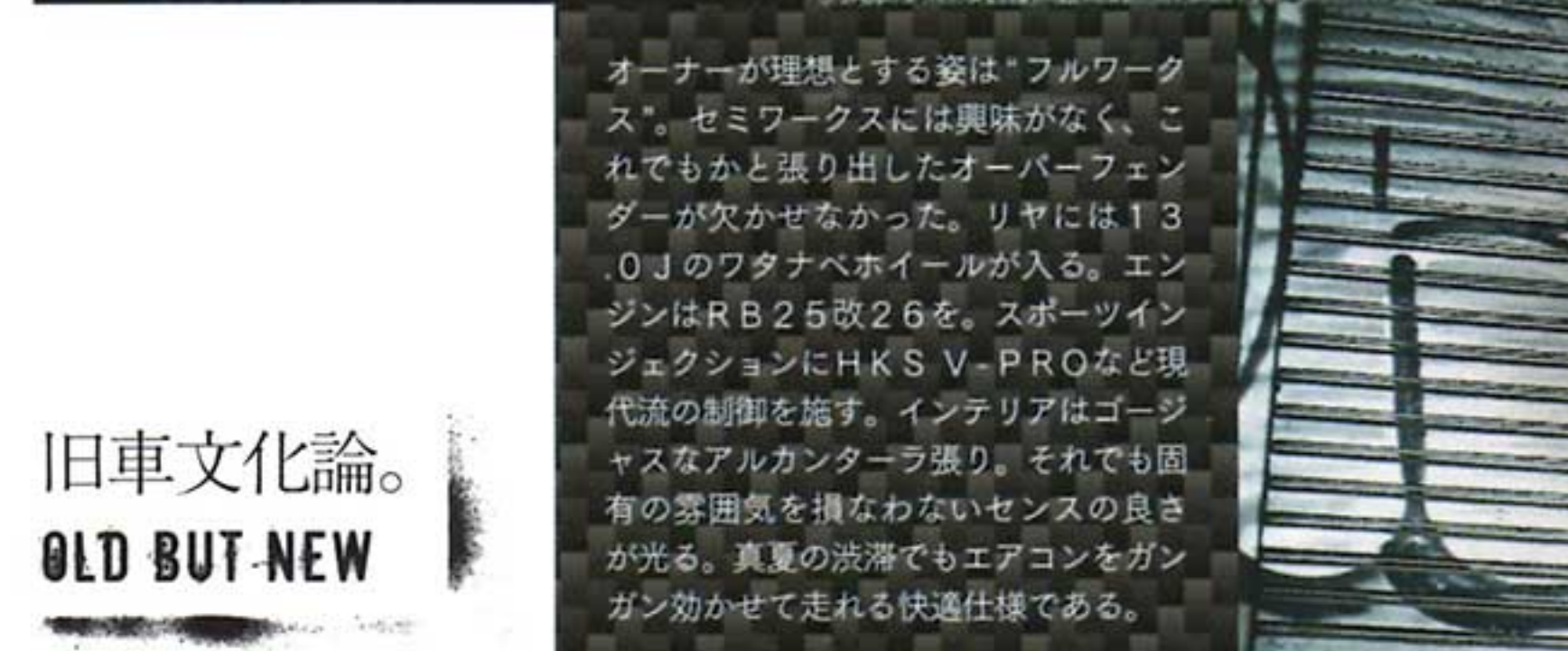
カーボンボディが無言で訴えるように、その考えは正解である。ボディのルーフとリアクォーター以外は、すべてカーボンで製作された。きっと当時のワークスが、現代の技術を持っていたら、きっとこうしただろうと思う。そしてリベットの留められたオーバーフェンダーに、これみよがしに露出させたオイルクーラーがいかにもレーシーだ。

かもまた、製作の動機は当時の憧れにあった。どう切り取っても一部のスキもないほどの迫力。ワークスで採用されたオーバーフェンダーにインスピレーションを得たカーボンフルワークス仕様である。製作はロッキオオート。と、聞けば、往年の常識を逸脱したエンジンスワップやボディメイクが想像される。

KSのV-PROで完全制御。結果として自然吸気ならではの淀みない吹け上がり、それに伴う圧倒的な出力特性を実現した。足まわりやブレーキも現代の技術を駆使して仕上げられているから、なんの不安もない。完璧なまでの優れたライトウエイトスポーツカーとして結実した。さらにはさすがRBとでも言うべ

きか、真夏の渋滞でもキンキンに冷えるオートエアコンと、自然なフライリングながら苦勞のない油圧パワステを装備する。乗り味を言うならこれは、ハコスカの姿カタチをまとった現代車だ。近所へのお買い物まで普通に使用してしまうのである。こうして現代に蘇ったフルワークス仕様のハコスカを思い描いた男は、元来、オーバーフェンダーという構造に並々ならぬ魅力を持っていた。オバフェンと言ったらまず名前の拳がるケーニツヒが三度の飯より大好き。実際に、世界各国さまざまなオバフェンマシンを所有する。そんな男がたどり着き、いま夢中になるの

が母国ニッポンの元祖オバフェンとして認知される。フルワークスのハコスカというのだから面白い。若かりし頃、目を輝かせてレースを観て、穴のあくほど雑誌を読み込んだ憧れを、より高みに登った姿カタチで手に入れる。しかも腫れ物のような扱いを強いられることはなく、日常の相棒として使えてしまう。もちろん、右足を力をこめれば減法速い。そんな賢沢、他を探してもなかなか見あたらぬ。これを造るのには、相応の資金力も必要とされるだろうが、自分のなかの「究極」と思えば安いもの。これぞ世界に1台、自分だけのスーパースポーツである。👊



旧車文化論。
OLD BUT NEW

オーナーが理想とする姿は「フルワークス」。セミワークスには興味がなく、これでもかと張り出したオーバーフェンダーが欠かせなかった。リヤには13.0Jのワタナベホイールが入る。エンジンはRB25改26を。スポーツインジェクションにHKS V-PROなど現代流の制御を施す。インテリアはゴージャスなアルカンターラ張り。それでも固有の雰囲気を損なわないセンスの良さが光る。真夏の渋滞でもエアコンをガンガン効かせて走れる快適仕様である。

Rocky Auto

まるで兜のごとき漆黒のオーラを放ち見るモノを圧倒するフルワークス仕様の箱スカ。ボディパネルの多くがカーボンに置き換えられともあれ戦闘的なアピランスを持っている。しかし、中身は快適仕様のハイテック。あるモーターヘッドな親父の理想が詰まったまさに最凶の「オヤジキラー」である。

Text: 中川大地 Daichi Nakagawa
Photo: 榎原晃 Koichi Shinohara

Hako-suka [Carbon Full] Works



最凶・オヤジキラー

モーターヘッド

M
O
T
O
R
H
E
A
D

San-ei shobo
1050 JPY

AUTUMN 2013

09

2nd
Anniversary
Custom Porsche Poster
"MOBY DICK"

特別付録

THE CUSTOM PORSCHE MANIAX 2

特集：

続・ポルシェを超えたポルシェ。

Magnus Walker
Singer 911 "Dubai"
GruppeM
The Check Shop
bbi Autosport
RWB
European Tuned Specials
Custom Trends
and so on...

Car meets Fashion
MH流ファッションイシュー。

Old but New
新時代の旧車論。

The American Soul
日本人のアメリカ魂。

